2009年の主要水産物の需要と供給

単位：数量，1000トン、価格，円／kg

	数量							価格					
年	生産	食用加工	輸入	輸出	東京	缶びん詰	在庫	生産額（億円）	輸入（億円）	輸出（億円）	東京	魚介類消費支出１世帯	為替レート
20	5,592	1,961	2,767	519	617	116	1,173	16,275	15,636	2,083	844	88,594	103
21	5,429	1,825	2,595	498	588	117	1,163		12,950	1,727	802	85,917	94
%	97	93	94	96	95	102	99	0	83	83	95	97	91

数　　量

本年の国内生産量は前年をやや下回った。

全体的な特徴としてはイワシ類やサケマス類、タラ類が生産を伸ばしたほかは目立った増産がなくかつ・マグロ類の減少が顕著であった。

大きく増加した魚種は、上記イワシ類やサケマス類、タラ類、ビンナガ等であり、大きく減少した魚種はマカジキ、イカナゴ、沖アミ、ムロアジ、ホッケ、ハタハタ等であった。

輸入は、260万トンと為替円高だったが、各国との買い付け競合等もあって引続き前年をやや下回った。

本年は、目立って多くなったのは国内生産が不振のカツオ、タコ、筋子、ウナギ程度で、概ね減少か横ばい基調の魚類が多かった。

近年増加基調が続いていた輸出は、約49.8万トンで前年（51.9万トン）を本年も引き続き為替円高もありやや減少した。

目立って多くなったのはサケ類、カジキ類、たら類、ビンチョウ、サンマ、昆布等で、他の魚類は概ね減少となり、昨年下半期の金融危機を契機とした世界同時経済不況の影響が続いた。

東京の入荷量は、58.8万トンで引続き前年(61.7万トン)をやや下回った。

在庫量は、月平均116万トンほぼ前年（117万トン）並みであった。

価格・金額

本年の産地価格の特徴は、漁が不振であった生鮮カツオの上昇が目立った程度で、冷マグロ類や冷ビンナガ、冷カツオなどが大きく下落した他、総じて価格は弱含んだ。

東京消費地価格は、802円で前年（844円）を下回りデフレ状況が続いた。

輸入金額は、１兆2950億円（前年:１兆5636億円）で前年を2686億円下回った。

輸出金額は、1727億円で引続き前年（2083億円）を356億円下回リ、今年は輸出入とも数量、金額とも減少した。

円　レ　ー　ト

21年の円レート（対ＵＳドル）は、年平均94円で前年（103円）より9円の円高となった。

円レートは、85年の９月のプラザ合意以降一時的な円安がみられたものの急速な円高・ドル安傾向が10年間続いた。

しかし、95年秋から円安に転じ、97年以降に証券会社、銀行の倒産が続き金融システム不安等も重なり一層円安が進行し、98年も一時140円台の安値を記録するなど秋口まで円安が進行した。その後、一時年末にかけて円高(113円)へと反騰したが、99年は夏場までやや円安(114～121円)で推移したが、下半期には急激に円高に反騰し、12月は103円まで急騰した。2000年

は年末の円高の103円からスタートで、一時的な円高はあったが、基本的には円安傾向で推移し、年末には111円まで下げた。01年は長引く不況や銀行、ゼネコン、流通分野での倒産、再編もあり、年を跨いで急激な円安が進行し、９、10月に119円とやや円高に戻したものの12月には124円と円安に急落した。02年には131円の円安から始まってその後円高に転じ、8月に118円まで上昇したが、一向に景況感の低迷もあり12月には122円まで下げた。その結果、為替は10年前の水準まで戻した。03年は年初の119円から始まり9月までは2円前後の幅での小さな動きであったが、10月に111円と急騰し、11,12月と小幅円高で推移し108円まで上げた。04年は年初106円の円高で始まり、５月に112円の円安に振れたが、その後は円高に転じ11月以降は104円、103円まで上げた。05年は年初の103円から下半期には円安に変わり７月には110円まで下げ、その後一貫して円安で推移し、12月には119円まで下げ、年末には若干円高となり117円台で推移した。06年、年初は引続き円高の116円でその後も117円とやや円安で推移していたが、５月に112円と円高に振れたが、それ以降は11月の119円までじり安推移し、11,12月と若干の円高に戻した。07年は年末以上に円安の121円に始まり、６月には123円まで円安が進行した。しかし米国のサブプライムローン等の影響もあって、７月以降は円高に振れ、11月には110円まで進み、12月には112円にやや円安となったが、基本的には下半期は円高基調になった。

08年は、年初から円高となり、3月100円まで円高が進んだその後は８月まで円安に振れたが、９月のリーマンショック以降の世界金融危機の拡がりの中で円は急騰し、12月には91円まで上げた。09年は90円の円高から始まり、4月には99円の円安となり、その後は円高となり、11月には90円を割り、12月には一時84円台を記録するなど、円高が進行した。

（参考：84年237円→85年240円→86年170円→87年146円→88年128円→89年137円→90年145円→91年135円→92年127円→93年112円→94年102円→95年94円→96年108円→97年121円→98年131円→99年114円→2000年107円→2001年121円→2002年126円→2003年116円→2004年108円→2005年110円→2006年116円→2007年118円→2008年103円→2009年94円）

石　油　価　格（１kl当たり）

21年のＡ重油価格は、年初は前年来のからの安値を受けて46,000円から始まり3月中旬に39,000円と続落したが、3月下旬41,000円、4月上旬42,000円、6月中旬44,000円、下旬46,000円、7月中旬48,000円と上昇が続いた。しかし、その後７月下旬に47,000円と下げたが、8月上旬再度上げに転じ48,000円、下旬50,000円、9月上旬51,000円、中旬52,000円まで上げた。その後10月上旬51,000円、中旬50,000円、10月下旬51,000円となり、この価格が年末まで続いた。

参考：近年の最高値74,000円/kl（1982年11月）75,000円／ＫＬ(2007年12月)、115,000円(2008年7月)